

## 第47回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会③】

日時：2024年9月4日（水）

部会②・部会③ 10:00～11:30（予定）

場所：JR 東日本現地会議室

### 次 第

#### 【部会③】

(1)開会

(2)調査結果について

【資料1】

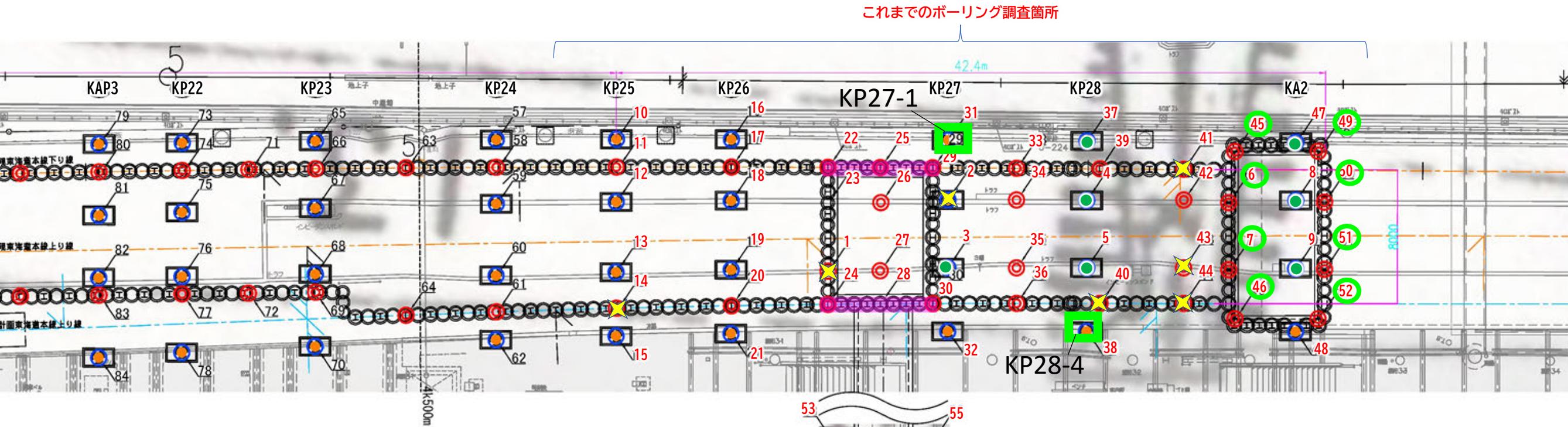
(3)No.11,12の加工木の面的調査の検討について

【資料2】

(4)その他

(5)閉会

※なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。



赤数字:ボーリング調査完了箇所

委員会では仮土留めの施工可と判断箇所

委員会では仮橋脚の施工可と判断箇所

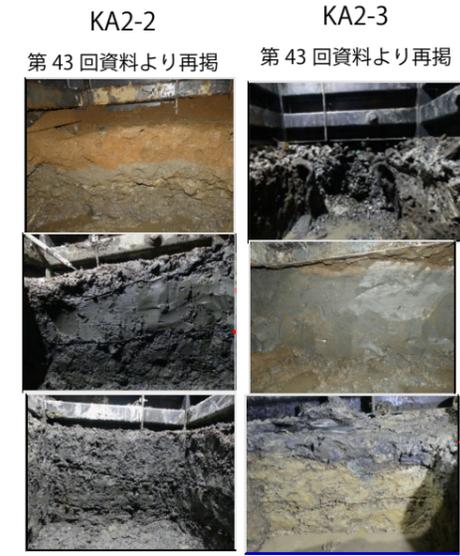
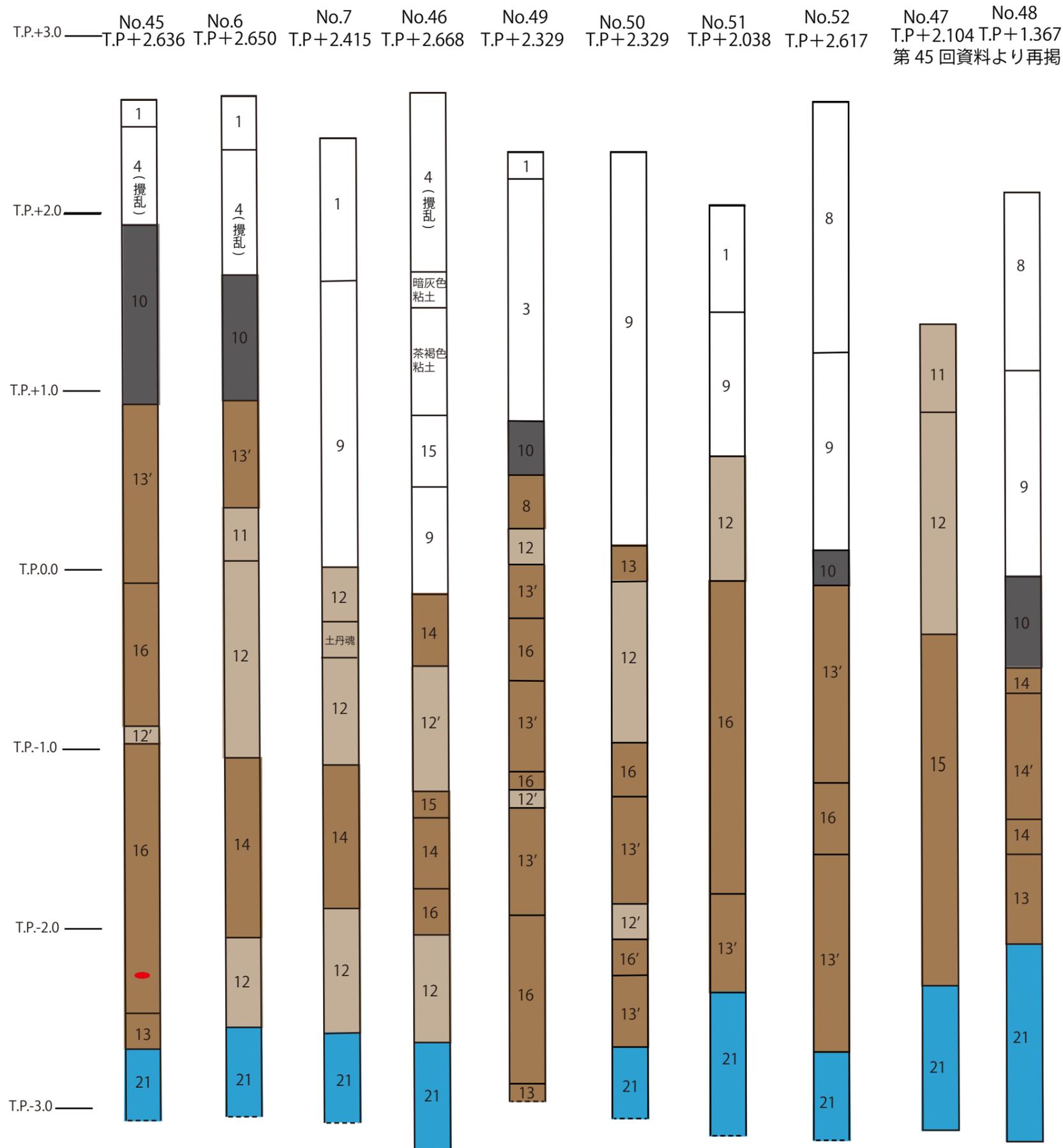
- 埋設文化財調査 : 64箇所
- 仮橋脚ボーリング調査φ66 : 64箇所
- ◎ 遮水壁ボーリング調査φ66 : 76箇所
- 横坑発進立坑ボーリング調査φ66 : 4箇所:完了
- ✕ 支障物接触箇所

■調査進捗状況

	KAP3	KP22	KP23	KP24	KP25	KP26	KP27	KP28	KA2
-1			・1段目設置済み	・1段目設置済み	・2段目調査中	・2段目調査中	・調査済み ※4段目ライナー設置は4/22夜	・調査済み ・施工可	・調査済み ・施工可
-2				・1段目設置済み	・1段目設置済み	・2段目調査中	・No.12加工木対応中	・調査済み ・施工可	・調査済み ・施工可
-3			・1段目設置済み		・1段目設置済み	・2段目調査中	・調査済み ・施工可	・調査済み ・施工可	・調査済み ・施工可
-4							・2段目調査中	・調査済み	・3段目調査中

□ :調査完了箇所

# ボーリング調査結果について



T.P+ 約 2.8~2.3m  
 T.P+ 約 2.3~1.8m  
 T.P+ 約 1.8~1.3m



No.45 陶器片

- 1, 碎石
  - 2, 暗灰色砂質土
  - 3, 褐色粘土
  - 4, 褐色砂質土
  - 5, 灰色砂質土
  - 6, 暗灰色シルト
  - 7, 黄褐色シルト
  - 8, 褐色シルト
  - 9, 褐色粘土
  - 10, 灰色粘土
  - 11, 褐色粘土 白色粘土含む
  - 12, 暗灰色粘土 貝片含む
  - 12', 暗灰色粘土
  - 13, 暗灰色シルト
  - 13', 暗灰色シルト 貝片・小礫含む
  - 14, 灰色シルト 貝片含む
  - 15, 暗灰色砂質土 貝片含む
  - 16, 灰色砂質土 貝片含む(海砂)
  - 17, 灰色粘土
  - 18, 灰色砂質土
  - 19, 礫層
  - 20, 暗灰色粘土
  - 21, 黒色粘土
- 灰色粘土(浚渫土)  
 粘土層  
 シルト・砂層  
 自然堆積  
 遺物



No.45



No.6



No.7



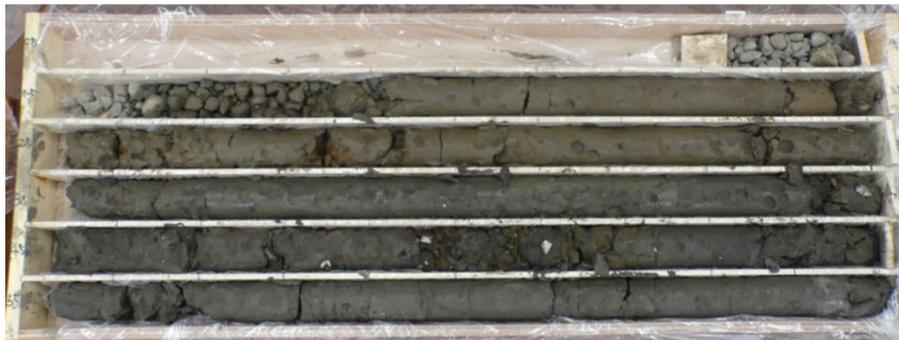
No.46



No.49



No.50



No.51



No.52

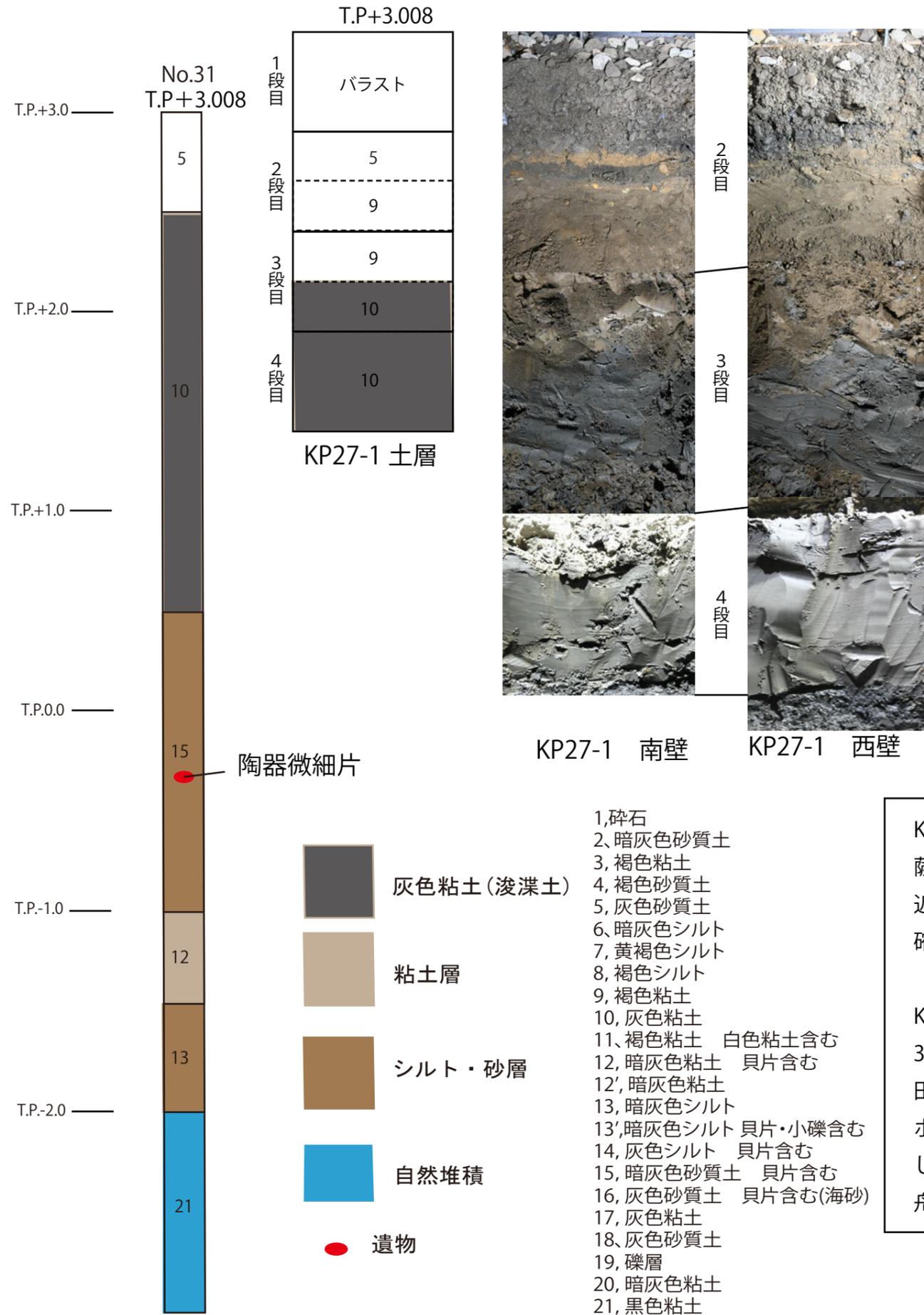


No.47

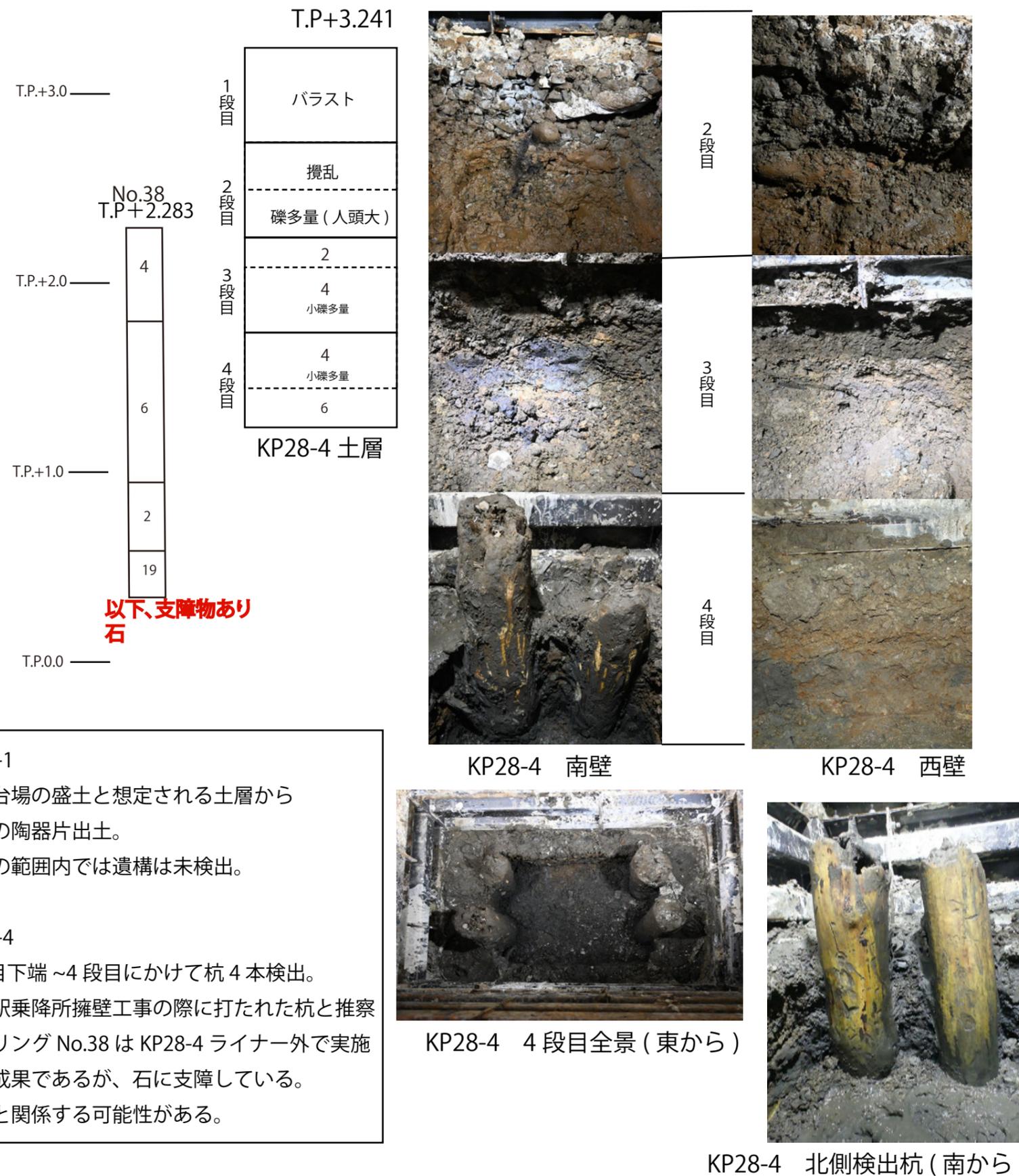


No.48

## KP27-1 及び No.31 調査成果



## KP28-4 及び No.38(ライナー外) 調査成果

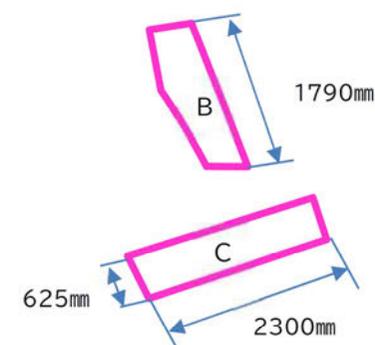
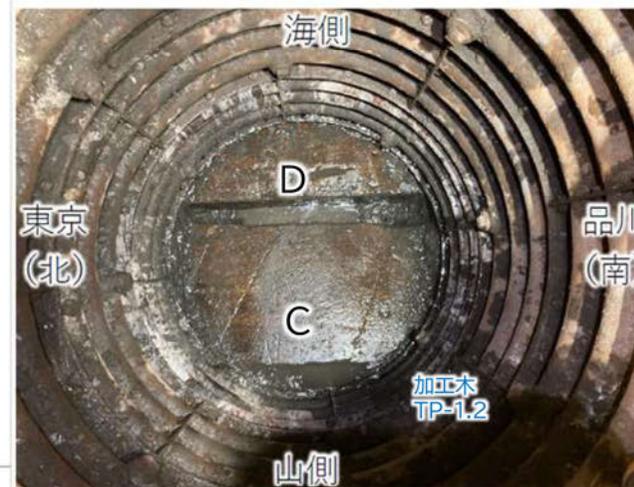
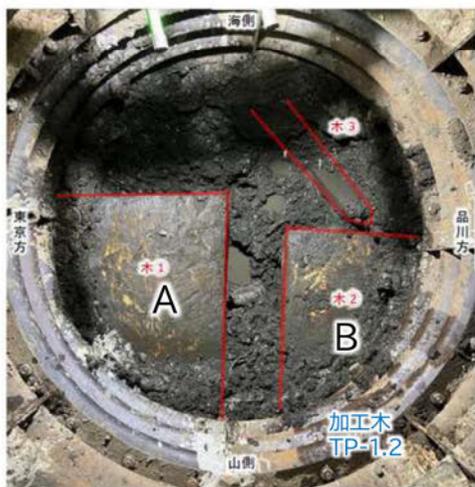


**KP27-1**  
 薩摩台場の盛土と想定される土層から近世の陶器片出土。  
 確認の範囲内では遺構は未検出。

**KP28-4**  
 3段目下端~4段目にかけて杭4本検出。  
 田町駅乗降所擁壁工事の際に打たれた杭と推察  
 ボーリング No.38 は KP28-4 ライナー外で実施した成果であるが、石に支障している。  
 舟入と関係する可能性がある。

No.11・12加工木範囲探針調査状況

【資料1-4】



□ : 想定できる加工木の最大サイズ

【凡例】

- : 探針:支障あり
- : 探針:支障なし
- ▲ : ボーリング箇所:支障なし
- ※数値は探針深さ、()内の数値は想定深さ

- 第46回委員会(8/7)において、No.11、12試掘箇所で出現した加工木の面的調査の検討の要請
- ⇒(検討1)鉄道線路内での調査となるため、鉄道運行の安全性を確保したうえで、面的調査が可能か検討
- ⇒(検討2)面的調査が困難な場合には、加工木の取り上げ方について検討

写真1:現地状況

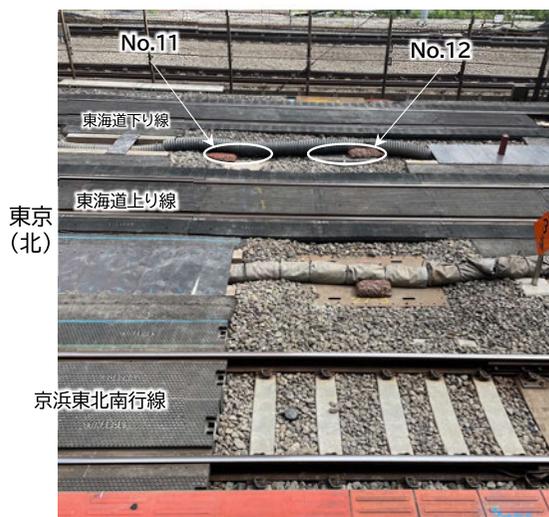


写真2:No.11 加工木状況

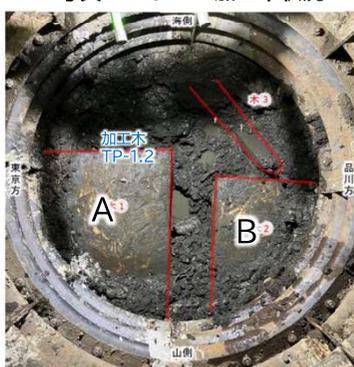
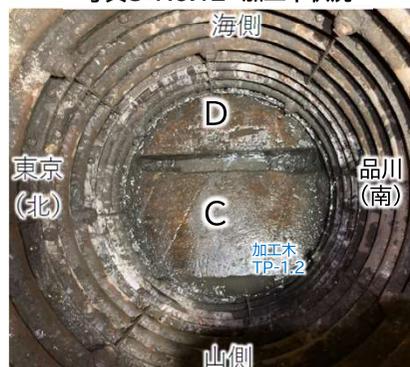
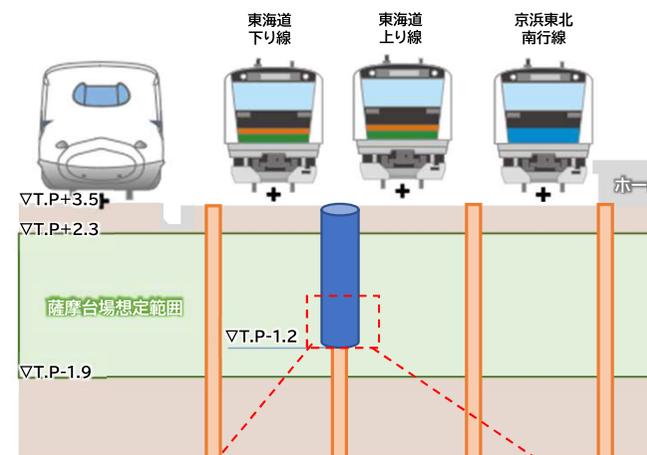


写真3:No.12 加工木状況



断面図 (東京方(北)を背に品川方を望む)



○検討1: 面的調査の検討

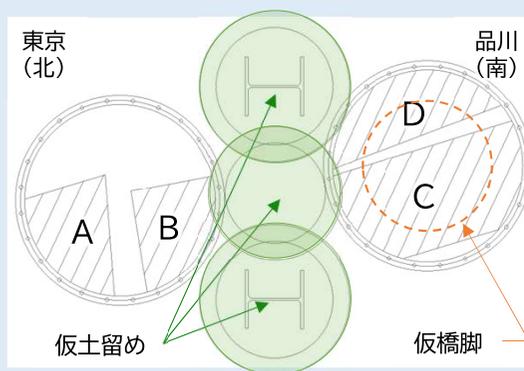
- ・現円形ライナープレート(φ1.2m)を大口径のライナー(小判型を含む)への置換えの検討
- ⇒東海道上下線に挟まれた狭隘箇所であり、大口径化した場合、軌道直下への設置が必要なことから、大口径ライナーへの置換えは困難

➔現況より拡大しての面的調査は困難

○検討2: 加工木の取り上げの検討

- ・加工木A:仮土留め等の施工に影響がない
- 今後の掘削時に取り上げが可能であるため、残置
- ・加工木B:仮土留めに支障
- ・加工木C・D:仮橋脚に支障
- 可能な限り大きく取り上げる方法を今後検討

➔現円形ライナープレート(φ1.2m)に入る工具(チェーンソー、電気ドリル等)を組合せることで、可能な限り大きく取り上げることは可能の見込



平面図:加工木と仮土留めの配置

3D Scan No.12断面図  
(東京方(北)を背に品川方を望む)

